



ヴィシェグラード・グループ

東欧諸国の反 EU 運動

共産主義崩壊後、旧共産主義体制の中では近代化しており、2004年にEUに加盟し、西側諸国との連携の旗手であったヴィシェグラード・グループ（ポーランド、チェコ、スロバキア、ハンガリーの4カ国の総称）は、今日では西欧が中東欧を完全には統合できないことの象徴となっています。4カ国の政治家は反EUを唱え、「EUは押しつけがましい」と批判しています。4カ国は、西側の主流に従うことを拒み、イスラム難民の受け入れを拒否し、EUの中央集権体制への批判を強めています。5月末の欧州議会選挙後、イタリア・フランスのポピュリズム政党との連携について交渉が進んでおり、これまでマクロン・フランス大統領が進めている「EUの更なる深化」が進まなくなる可能性が出てきました。EUの優等生とされるドイツ、フランス、オランダなどの北側諸国と南欧諸国の格差がこれまで市場を変動させる懸念材料でしたが、旧共産諸国陣営であった中東欧諸国との東西問題も懸念材料となりつつあります。欧州議会選挙後の政局は注意が必要でしょう。

金融商品取引業者：ブライツ・アセット株式会社
登録番号：関東財務局長（金商）第3102号
加入協会：一般社団法人第二種金融商品取引業協会
一般社団法人金融先物取引業協会
一般社団法人日本投資顧問業協会
HP：www.brightasset.co.jp

2019/05/08

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的としてブライツ・アセット株式会社が作成した資料です。投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示された意見などは、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更されることがあります。投資に関する決定は、お客様ご自身で判断なさるようお願いいたします。

ヴィシエグラード・グループ

東欧諸国の反 EU 運動

チェコスロバキア、ハンガリー・ポーランドの3か国が、1991年2月15日にハンガリー北部、ドナウ川沿いの都市ヴィシエグラードでの首脳会議が行われ、ヴィシエグラード・グループが設立されました。これら諸国は、伝統・文化的に近縁であることもあって、各国の友好・協力関係を進めること及びヨーロッパ統合の進展等を目的とされています。チェコスロバキアは、1993年に分離しましたが、チェコとスロバキアの両国ともグループのメンバーとなっています。これらの4か国は2004年5月1日にそろって欧州連合に加盟しました。

ヴィシエグラード・グループの議長国は毎年6月にチェコ、ポーランド、ハンガリー、スロバキアの順番で交代します。

ヴィシエグラード・グループ議長国

2006-2007	チェコ	2014-2015	スロバキア
2007-2008	ポーランド	2015-2016	チェコ
2008-2009	ハンガリー	2016-2017	ポーランド
2010-2011	スロバキア	2017-2018	ハンガリー
2011-2012	チェコ	2018-2019	スロバキア
2012-2013	ポーランド	2019-2020	チェコ
2013-2014	ハンガリー	2020-2021	ポーランド

EU との関係

共産主義崩壊後、旧共産主義体制の中では近代化しており西側諸国との連携の旗手であったヴィシエグラード・グループは、今日では西欧が中東欧を完全には統合できないことの象徴となっています。4か国の政治家は反EUを唱え、「EUは押しつけがましい」と批判しています。

4か国は、西側の主流に従うことを拒み、イスラム難民の受け入れを拒否し、民主主義のチェック・アンド・バランスを煩わしいものと考えています。

こうした傾向はヴィシエグラード・グループにとって新しいことではなく、過去10年の間に見られてきました。過去10年、EUは北の債権者と南の債務者の間の債務危機に忙殺され、EUを信じる西と信じない東との亀裂が広がるのを見落としてきました。その間に中欧で疎外感が定着したようです。

ヴィシエグラード・グループ諸国がEUに何か提案しても無視されるか、拒否されてきました。

ヴィシエグラード・グループ諸国はEUに加盟した時、安定を期待しましたが、加盟直後EUにユーロ危機、次いで大量の移民流入で揺れた時期でした。自由は、安全ではなく新たな不安定ととらえられるようになりました。多くの中東欧の人にとって、西側の一員になりながら依然取り残されることを恐れなければならないのはショックでした。

もともと、中東欧では、40年間の共産主義支配の結果、国民相互、政治グループへの不信感は大きいです。専制主義時代の遺産はいまだに残っています。この間、中東欧の国民は自由に適合する努力を怠っていたように見えます。経済は自由化しましたが、自分たちの心を自由化することを忘れたようです。一方、西ヨーロッパがその新しい東側のメンバーをあまりにも気にかけていなかったことから、中東欧の国民は二流のヨーロッパ人のように扱われていると感じているようです。中央ヨーロッパの人々は自由のために自分自身を適合させ、西側によって真剣に受け止められる準備が十分できていなかったように見えます。経済を自由化している間、彼らは彼らの心を自由化するのを忘れていました。

東西は両者が共存する治療法を施さなければいけません。EU内の東西の対立は、放っておけばBrexitが些細なことに思われるような重大な事態になる恐れがあります。

(2017/10/23 ニューヨーク・タイムズ紙、独ディ・ツァイト紙政治担当編集委員 Jochen Bittner 寄稿より
<https://www.nytimes.com/2017/10/23/opinion/czech-republic-european-union.html>)

ソ連の崩壊後、旧ソ連邦内の中東欧諸国がNATOとEUに加盟したことは、西側の体制に中央ヨーロッパが組み込まれることの象徴でもありました。実際、ビシエグラード諸国とEUとの経済関係は大きく成長し、切っても切れない関係になっています。

イギリスのEU離脱(ブリグジット)やEU内の南北問題にEUは対応が迫られています。中央ヨーロッパ諸国との関係改善を進める必要が出てきています。一部の人はEU内での東西の亀裂を論じていますが、亀裂を緩和し、解消することが何より重要なことです。それはEUの統合の維持、推進にとって非常に重要なことです。南北の格差の縮小のみならず、東西の亀裂も解消する必要があります。

それとともに、ロシアの干渉に備えることも重要です。ロシアは中欧諸国を再びロシア圏に組み入れることまでは考えてはいないでしょうが、中欧諸国の不満に付け込みEUを弱体化することは、ロシアの外交の目的の一つと考えられます。一部の国では親ロシア派の政治家が注目されつつあります。中央ヨーロッパ諸国がNATOから離脱することはないでしょうが、各国でポピュリズム政党

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的としてブライト・アセット株式会社が作成した資料です。投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示された意見などは、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更されることがあります。投資に関する決定は、お客様ご自身で判断なさるようお願いいたします。

の支持率の上昇が見受けられます。EUを離脱はしないが、ブリュッセルによる中央集権の見直しおよび地方自治を求める動きも支持を伸ばしています。

また、EU28 各国のエネルギー輸入の

ドイツの最大の貿易相手は中欧 4 カ国、EU 内での“齟齬”の深まりには懸念も

中欧の地域協力機構である「ヴィシエグラード・グループ」の加盟 4 カ国はドイツ最大の貿易相手です。これらの国はドイツに近いうえ、質の高い労働力を低コストで利用できることから、ソ連を中心とする共産圏が崩壊した 1990 年代初頭以降、製造業の工場進出が活発化しました。

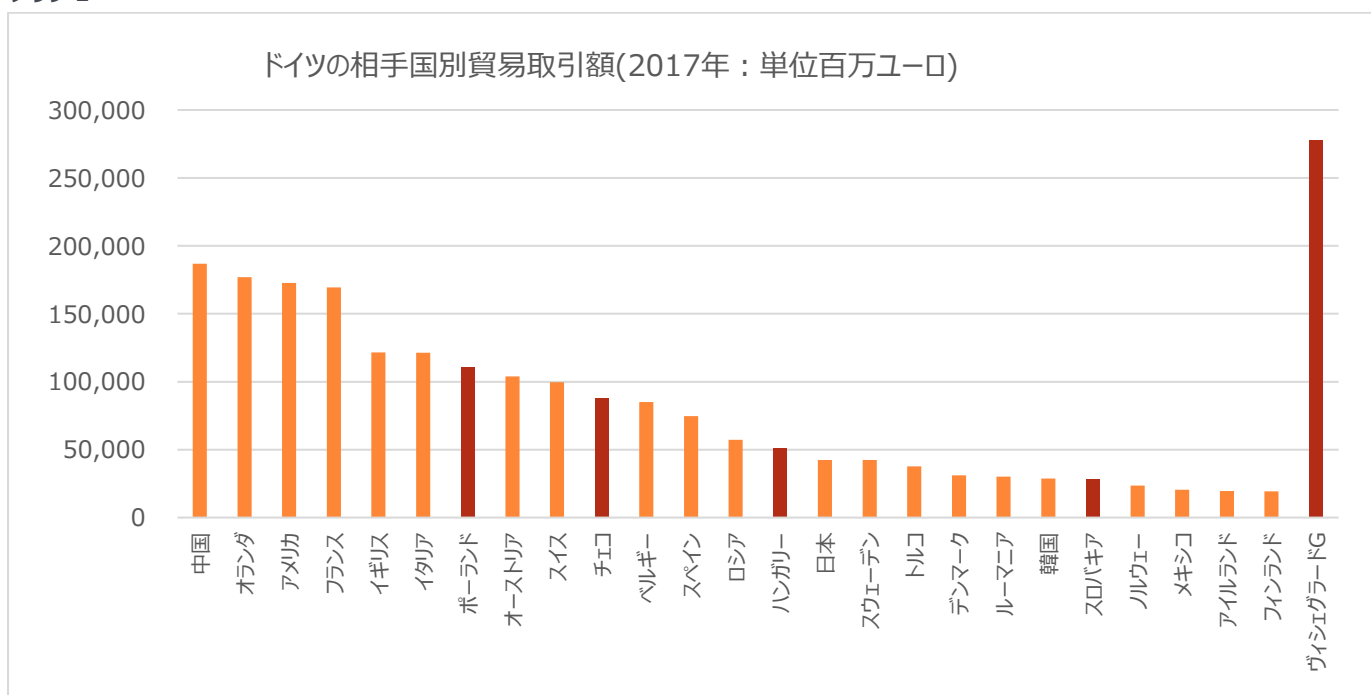
ただ、中欧諸国ではハンガリーのオルバン政権などポピュリズムの勢力が強く、欧州連合（EU）やドイツのリベラルな価値観への反発が根強いことから、経済界内には EU 内での政治的な“齟齬（そご）”が深まることへの懸念が強まっています。

EU との経済関係

ヴィシエグラード・グループは各国レベルで見ると規模が小さく、最大のポーランドも人口は 3,800 万人とドイツの半分以下です。ドイツから見た貿易相手国ランキングではポーランドが 7 位、チェコが 10 位、ハンガリーが 14 位、スロバキアが 21 位です。

しかし、4 カ国を合わせると対独貿易総額は 2,777 億ユーロ（2017 年）に達し、国別トップの中国を大幅に上回っています（下のグラフ 1 参照）。同総額の 12 年比の伸び率も 31%と、中国（17%）、米国（20%）より高くなっています。

グラフ 1



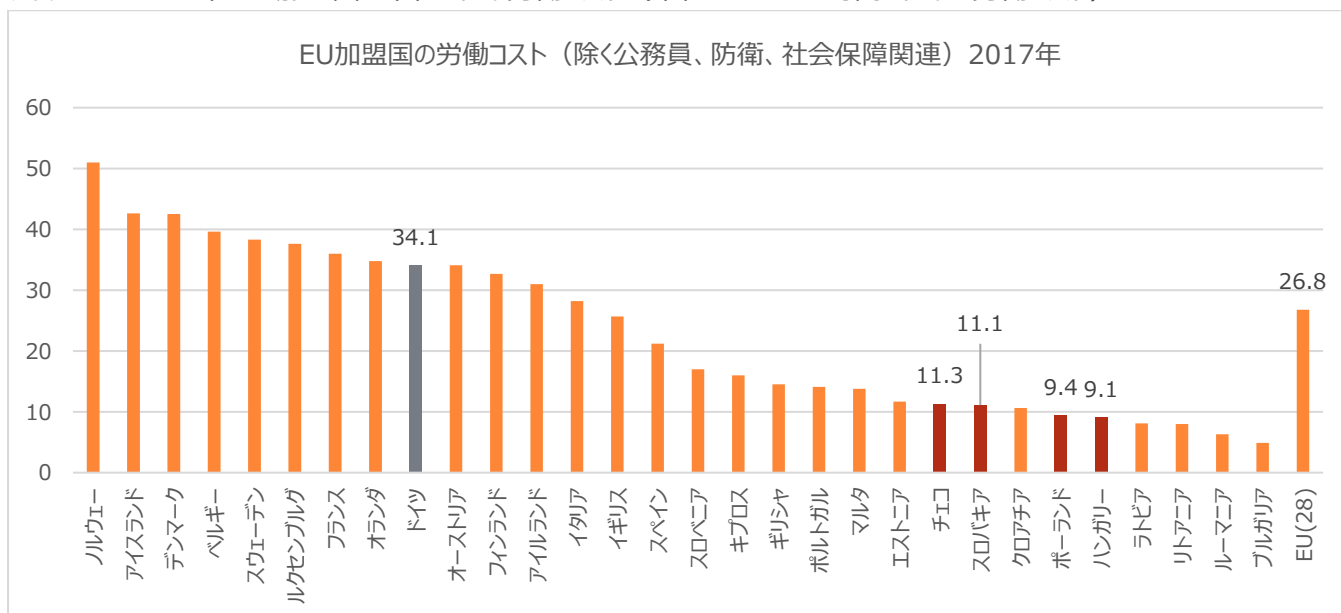
出所：ドイツ連邦統計局

製造業の person 費をみると、ドイツは 1 時間当たり 34.1 ユーロに達し、EU で 4 番目に高い。一方、ポーランドは 9.4 ユーロ、ハンガリーは 9.1 ユーロ、チェコは 11.3 ユーロ、スロバキアは 11.1 ユーロにとどまる。EU 平均の 26.8 ユーロを大幅に下回ることから、ドイツの製造業は今後もヴィシエグラード・グループ向けの投資を積極的に行うと予想されます。（下記グラフ 2,3 参照）

ベルリンの壁崩壊、東西ドイツの統一以降、東欧諸国、特にヴィシエグラード・グループ 4 カ国が 2004 年に EU に加盟するまでの間、ドイツが、母親役であり、資金の面倒を見て、後見人の役割も果たしてきました。この地域を安定させ、NATO に加盟させ、市場メカニズムに転換させ、その経済をドイツの生産体制に組み込むことが戦略的至上命令でした。この使命は遂げられ、ドイツの最大貿易相手国となったヴィシエグラード・グループ各国は、ドイツ産業のための加工工場へと変貌し、労働力を供給しました。

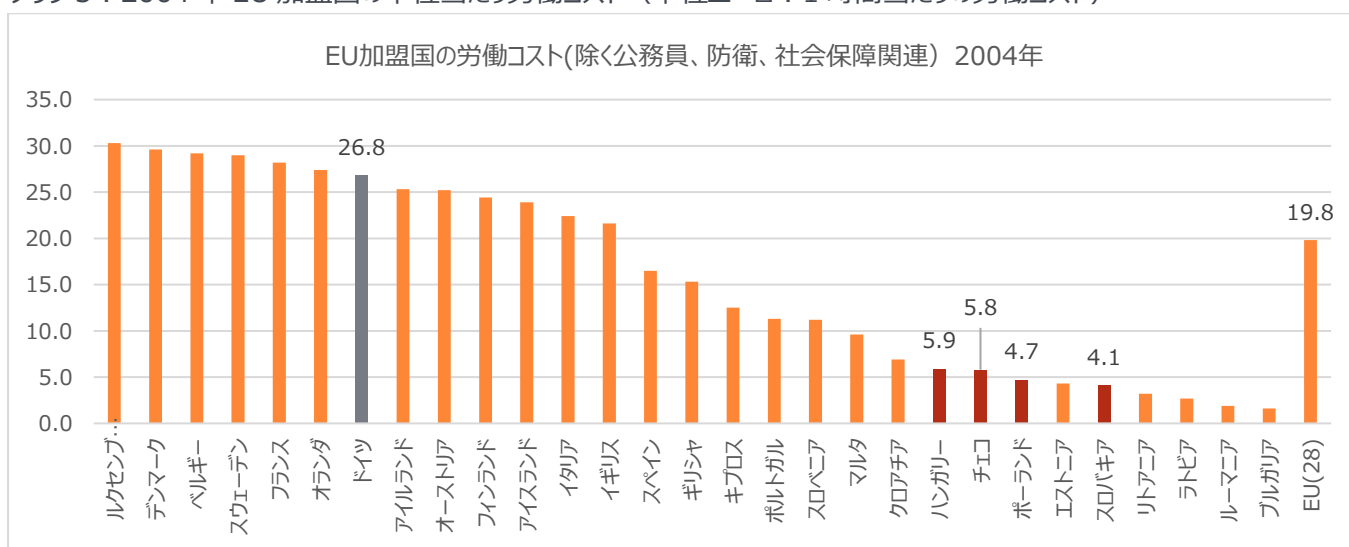
当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的としてブライト・アセット株式会社が作成した資料です。投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示された意見などは、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更されることがあります。投資に関する決定は、お客様ご自身で判断なさるようお願いいたします。

グラフ2：2017年 EU 加盟国の単位当たり労働コスト（単位ユーロ：1時間当たりの労働コスト）



出所：Eurostat、Labor cost Level by NACE

グラフ3：2004年 EU 加盟国の単位当たり労働コスト（単位ユーロ：1時間当たりの労働コスト）



出所：Eurostat、Labor cost Level by NACE

親 NATO の立場から 2003 年のイラク侵攻に際してはアメリカの陣営に加わりました。しかしそのほかのことに関しては、彼らはドイツに信頼される盟邦であろうとしてきました。EU 加盟以降、ヴィシエグラード・グループ諸国はドイツの求める財政規律を支持し、特にギリシャに対するとともにドイツの見解を支持しました。

2011 年 11 月 29 日にポーランドの前政権の政治家ラドスワフ・シコルスキは、かつて自国を侵略した隣国ドイツに対して、「次のようなことを言う外務大臣は、ポーランド史上おそらく私が初めてでしょう。すなわち、強大なドイツより、無力に陥ったドイツの方が心配です」とのコメントを出しました。

ところが、その後の一連の出来事によってすべてが変わってきています。2015 年 9 月にドイツが数十万人もの難民を受け入れ、10 月にはカチンスキの PIS がポーランド議会選挙で圧倒的多数を勝ち取り、11 月にはポーランドがドイツの植民地になってしまったと嘆いていたヴィトル・ヴァシチコフスキ議員が外務大臣になり、同党は憲法裁判所と一部の公共メディアと司法機関の支配に着手し、EU との間で大問題に発展しました。

それ以降、ドイツとポーランドの不和は広がり、今や EU とヴィシエグラード・グループ諸国が対立するまでにその範囲は拡大しています。ポーランドの政治的目標に挙がっているのは、メルケル氏の難民受け入れ政策反対と、ポーランド、ハンガリー、チェコ共和国、スロバキアの猛烈な反対にもかかわらず、メルケル首相の強い指導力で 2015 年末に欧州理事会が採択した 16 万人の亡命希望者の移送の仕方です。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的としてブライト・アセット株式会社が作成した資料です。投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示された意見などは、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更されることがあります。投資に関する決定は、お客様ご自身で判断なさるようお願いいたします。

ヴィシエグラード・グループ諸国は、ムスリム移民を押し付けられるという思いが広がるなか、ポーランドは賃金を下げるために多くのウクライナ移民を受け入れました。欧州委員会は2017年6月半ばにはポーランド、ハンガリー、チェコ共和国に対して、難民を受け入れさせるためにEU協定違反の手続きに着手しました。この一部始終は、これら諸国のメディアに大々的に報じられました。東欧諸国としては、EUを率いる自由主義諸国は経済的な利益を強要することに飽き足らず、今やEUの下位メンバー国に倫理的・政治的重要課題まで押し付けるつもりなのだという確信を強めていったようです。

2017年7月にブダペストで開かれた非公開の首脳会合において、EUがイスラエル・EU間の協力協定において中近東での和平プロセスに厚かましくも言及したことに憤慨していたイスラエルのベンヤミン・ネタニヤフ首相は、「欧州の価値観と利益を守り欧州へのさらなる移民流入を防ぐ西側の国」であるイスラエル国家を「支持」するよう求めた。ハンガリーのオルバン氏はマイクのスイッチが入ったままで隣のプレスルームに会話が聞こえているのも忘れて、こう呼びかけた。「ネタニヤフさん、EUは域外国にだけでなく加盟国にも難題を突きつけてくるのです」。

現在ヴィシエグラード・グループの懸念材料は、各国で強まる民主主義的な価値からの乖離です。EUは加盟希望国に対し普通選挙や法の支配、三権分立、人権尊重といった近代民主主義の価値の受け入れを93年のコペンハーゲン基準で義務づけています。ヴィシエグラード・グループも受諾したうえで加盟しました。

しかし、ハンガリーのオルバン政権とポーランドのシドゥウォ政権は司法権と批判的なメディアを圧迫しています。欧州評議会の「法による民主主義のための欧州委員会（ヴェネツィア委員会）」やEUの欧州委員会の批判にもかかわらず態度を改めず、EU危機の一因となっています。オルバン首相とポーランドの実質的な権力者である与党「法と正義」のヤロスワフ・カチンスキ党首は、制度的には民主制だが実質的には自由が制限される「非自由主義的民主主義（illiberal democracy）」を信奉しています。

チェコでは2017年10月の下院選挙において富豪で「チェコのトランプ」と称されるアンドレイ・バビシュ前財務相（63）率いるポピュリスト政党「不満を抱く市民の運動（ANO）」が2位以下に大差をつけて勝利しました。日系人のトミオ・オカムラ氏が率いる極右「自由と直接民主主義」（SPD）が第3党となり初の下院進出を果たしました。

難民問題を受けてオーストリアとルーマニアがヴィシエグラード・グループに接近していることもあり、経済界は中東欧諸国の“異質化”が一段と強まることを懸念しています。

といっても、ヴィシエグラード・グループが完全な一枚岩ではないことも事実です。宗教国ポーランドと世俗主義のチェコ間には意見の対立があり、スロバキアの社会民主主義派の党首で首相のロベルト・フィツォとハンガリーの民族主義保守派のオルバンの間でも、反ロシア的観念に取りつかれたポーランド政府と親ロシアのスロヴァキア政府の間でも意見の相違があります。

アメリカとポーランドは、気候変動とエネルギーの問題でも、ドイツが拒否した立場を支持している。EUの温室効果ガス削減優先方針が、ドイツのエネルギー政策転換と完全にマッチするにしても、石炭が戦略的な重要性を持つポーランドにとってはEUのこの要請は受け入れがたい。

ポーランドにとっては、ロシア・ドイツ間の天然ガスパイプライン「ノルド・ストリーム2」の建設プロジェクトを巡る問題もあります。ロシアがコントロールし、ゲアハルト・シュレーダー元首相が役員に就任しているコンソーシアムがバルト海の海底に敷設するこのパイプラインは、ポーランドから恰好の通行権収益機会を奪うものです。この事業は激しい怒りを呼び、あれほど手放して親ドイツ派のNATO支持者だったポーランドのシコルスキ元外相（2007-2014）までが、[2011年に稼働を開始した]第一次ノルド・ストリームの独露合意を、現代の「独ソ不可侵条約」（1939年8月に締結され、ポーランド分割条項を含んでいた）になぞらえました。

移民受け入れに反対するカチンスキ、オルバーン、フィツォ、バビシュ、さらにはドイツの極右が政治問題化し、怒りを再び向けているのはまさにこの点です。ドイツの極右勢力AfDは今や旧東ドイツを地盤にドイツ第二の政治勢力の支持を得ています。その地域の人々は東側の近隣諸国とともにソ連崩壊後の移行期の混乱とトラウマに満ちた経験を共有しています。2015年の大量の難民受け入れは、イギリスのEU離脱の決定やイタリアでのポピュリズム政党による連立政権誕生を引き起こし、政治的に大変大きな問題をEUに投げかけることになってしまいました。

5月の欧州議会選挙の結果によっては、イタリアやフランスの極右ポピュリズム政党と東欧の反EU政党が提携し、欧州議会の運営を困難にしていく可能性が高まっています。

イギリスは3月末にEU離脱を決定できなかったため、欧州議会選挙を実施することとなりました。世論調査の結果では60%の有権者が、EU離脱かどうかという点に焦点を当てており、最新の世論調査の結果（YouGov 5/2実施）では、欧州議員のないジェル・ラファージ氏が4月に立党した「ブリグジット党」が30%の支持を集め、保守党・労働党を差し置き、第1党の地位を奪いそうです。イギリスはEU離脱すれば、欧州議会選挙は意味のないものとなりますが、ラファージ氏はやる気満々のようです。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的としてブライト・アセット株式会社が作成した資料です。投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示された意見などは、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更されることがあります。投資に関する決定は、お客様ご自身で判断なさるようお願いいたします。

難民政策に対するヴィシエグラード・グループ首脳の声（2016年）

ハンガリー

ハンガリーのヴィクトル・オルバン首相は EU 主導の政策に常に異議を唱えてきた“EU の異端児”と呼ばれる政治家です。メルケル首相との会談では、「EU の難民政策の修正を求める」と早々と戦う姿勢を示してきたほどです。オルバン首相はワルシャワ首脳会談前、対セルビアの国境線の壁建設拡大を宣言し、「われわれの国境を花や動物の人形で守ることはできない。国防は軍隊、警察、そして武器だ」と述べ、難民ウエルカム政策を実施するメルケル首相を間接的に批判しています。

チェコ

チェコのボスラフ・ソボトカ首相は 25 日、ワルシャワの首脳会談に先駆けメルケル首相とプラハで会談しましたが、「加盟国に難民の強制的な受け入れを要求するやり方は容認できない」と述べ、「わが国はイスラム系難民を受け入れない」と強調し、メルケル首相に反対の立場を直言しています。プラハ政府建物の前で市民から「メルケル、出ていけ」といったシュプレヒコールが響き、同首相の難民政策への批判が強いことを物語っています。ソボトカ首相は、「歴史も文化も異なる難民を迎えることを好ましくない。そのうえ、イスラム過激派テロ組織『イスラム国』(IS)に属するテロリストが難民の中に混ざって入ってくる」と強調し、フランスやドイツでの IS のテロ事件を指摘し、「イスラム系難民の社会統合は容易ではないという現実がある」と主張しています。

ポーランド

ポーランドのベアタ・シドゥウォ首相は、「難民政策でわれわれは一致を見出さなければならない」と述べ、「難民の分配ではなく、紛争地での開発・人道支援の拡大」を提案し、ブリュッセルの難民政策との妥協を模索する姿勢を示しています。ちなみに、同国のヴィトルド・ヴァシチコフスキ外相はドイツ通信(DPA)とのインタビューの中で、「ドイツの難民政策は非常に利己的な計算に基づいている」と批判し、ドイツの難民政策を“自国中心”だと断言していました。

シドゥウォ首相は、「英国の離脱後、EU は安全保障と経済政策の両分野で連帯が願われる。EU は問題を解決しなければならない。EU が問題となってはならない。そのためにも EU の改革は急務だ」と述べていました。

スロバキア

スロバキアのロバルト・フィツォ首相は、「わが国はイスラム系難民を受け入れる考えはない」と宣言してきた中欧の政治家です。その一方、「EU の共同防衛政策の重要性」を訴えています。メルケル首相とヴィシエグラード・グループ諸国首脳は、「EU の域内外の安全問題は、2016年9月にスロバキアの首都ブラチスラヴァで開催予定の EU 非公式首脳会談の重要テーマ」という点で一致したとの報道もありました。特に、トルコが 10 月、EU との間で合意した難民政策を解消した場合、再び大量の難民がバルカン・ルートで欧州に殺到するケースを心配していたそうです。

ポーランド総選挙（2015年10月25日）

ポーランドで 2015 年 10 月 25 日、総選挙（上院 100 議席、下院 460 議席）の投開票が行われ、難民反対などを掲げる保守系の最大野党「法と正義」が勝利した。出口調査によると、得票率 39%で単独過半数獲得の見通し。「法と正義 (PiS)」は欧州連合 (EU) 懐疑派の保守派野党で、反難民政策などを公約に掲げた党首のヤロスワフ・カチンスキ元首相 (66) は勝利を宣言。リベラル派与党「市民プラットフォーム (PO)」党首のエバ・コパチ首相は敗北を認めた。

2018 年 10 月 21 日実施されたポーランド地方議会選挙で、反欧州連合 (EU) の保守与党「法と正義」が勝利する見通しとなった。出口調査によると、前回より 5 ポイント以上多い 32.3%の得票で、野党連合の 24.7%を上回った。ポーランドの最高実力者、カチンスキ党首は「我々は勝利した」と語り、2019 年の総選挙に向けて自信を示した。

同日実施のワルシャワ市長選挙では、親 EU の野党候補、ラファウ・トゥジャスコフスキ氏が事前予想を上回る 50%を超える得票で勝利する見込みとなった。与党が強い農村部とは対照的に、大都市部では権威主義的な現政権への批判が高まっている。

2015年11月～2017年首相はベアタ・マリア・シドゥウォ女史（PiS 副党首）

シドゥウォ氏は好調な経済を背景に支持率が高かったが、政府の司法介入を可能とする法案などを巡って欧州連合 (EU) の反発を引き起こした。この時、ポーランドの大統領は当初の司法改革案を却下し、初めて PiS のお飾りという役割を捨てた。

2017年12月7日より、首相はモラウィエツキ氏（前財務相）

2015 年の総選挙で PiS が勝利して以降、実質の権力者は PiS 党首のカチンスキ氏。

チェコ総選挙（2017年10月20、21日）

チェコは 20、21 の両日、総選挙（下院、定数 200）を行った。チェコ統計局の発表によると、開票率 99%の段階で、実業家で「チェコのトランプ（米大統領）」と呼ばれるアンドレイ・バビシュ氏が率いる与党の中道政党「ANO2011」が得票率 29.8%で他を引き離し、第 2 党から第 1 党になることが確実になった。

欧州の旧社会主義国で政治的に最も安定していると言われてきたチェコにもポピュリズムの風が吹き、欧州連合 (EU) との関係にも影響しそうだ。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的としてブライト・アセット株式会社が作成した資料です。投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示された意見などは、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更されることがあります。投資に関する決定は、お客様ご自身で判断なさるようお願いいたします。

ANO は汚職追放と既成政治打破を掲げて 2012 年に結成された新興政党。食品やメディア関連企業などを経営する富豪として知られるバビシュ氏は「反エリート」を前面に出し、大胆な議員定数削減などを打ち出す。EU の単一通貨ユーロの早期導入に消極的とされ、難民受け入れに反対する発言を重ねる。首相になれば、ハンガリーやポーランドとともに、EU 加盟国でありながら EU 批判の声を強める可能性がある。

バビシュ氏を巡っては EU からの補助金不正受給疑惑も浮上しており、政治権力のトップに就くことに懸念の声がある。

2 位は中道右派・EU 懐疑派の市民民主党で、得票率 11.2%。反イスラム・反 EU を掲げる日系人トミオ・オカムラ氏が率いる右翼政党「自由と直接民主主義」が、10.7%で続く。現政権で ANO と連立するソボトカ首相の中道左派・社会民主党は 7.3%と大きく後退した。

(朝日新聞 2017/10/22 より)

ハンガリー総選挙 (2018 年 4 月 8 日)

2018 年 4 月 8 日に実施されたハンガリー総選挙 (一院制、定数 199) でオルバン首相が率いる与党中道右派連合「フィデス・ハンガリー市民同盟」が得票率 48.8%を獲得し、憲法改正が可能な国民議会の 3 分の 2 を上回る 134 議席を獲得した。

オルバン首相は 2010、2014 年に続いて 3 期連続、通算 4 期目の政権を担う。東欧諸国で 3 期連続政権を担当した政党は「フィデス」以外にない。オルバン首相は選挙戦で新しい魔法の言葉を使ったわけではない。唯一、反難民政策を訴えただけだ。「イスラム系難民の殺到は欧州のキリスト教文化、社会にとって危険だ」といった内容だ。

オルバン氏は選挙戦で、EU や国連がハンガリーに難民受け入れを迫っていると訴え、その裏にハンガリー出身の米投資家ジョージ・ソロス氏がいると主張。野党を「ソロスの候補」と呼んで批判した。最終盤では、EU による難民の割り当て拒否で歩調をそろえるポーランドから政権の実力者で与党党首のカチンスキ氏を招いた。法の支配や人権などの点で EU から問題視される政権同士で、連携をアピールした。

オルバン首相が率いるフィデスの圧勝が報じられると、EU 加盟国では大歓迎する声と懸念する声が聞かれた。欧州議会の最大会派「欧州国民党」(EPP) を分裂させ、西欧と旧東欧諸国の間に取返しのつかない亀裂をもたらすオルバン首相の危険性が現実化してきました。

フランスの極右政党・国民戦線のマリーヌ・ル・ペン党首はオルバン氏の勝利を祝福し、ツイッターで「EU が掲げている価値の逆転と大規模の移民流入は再び拒否された」とコメントした。

オルバン首相の総選挙での圧勝を最も喜んだのは旧東欧諸国のヴィシエグラード・グループ (ポーランド、ハンガリー、スロバキア、チェコの 4 カ国から構成された地域協力機構) でした。「国家の尊厳と自由はオルバン氏と共にある」とポーランド PiS のカチンスキ氏はコメントしました。過去ハンガリーと共にブリュッセルが決定した難民分担の割り当てに強く反対してきた経緯があります。オルバン首相の反難民政策は東欧諸国だけではなく、西欧諸国でもオルバン主義が拡大しつつあります。オーストリアで昨年末、中道右派「国民党」と極右政党「自由党」連立政権が誕生したばかりで、ドイツのポピュリズム政党「ドイツのための選択肢」

(AfD) は昨年 9 月の連邦議会選で第 3 党に飛躍している。イタリアでは難民政策に反対する「同盟」と「五つ星運動」が連立政権を樹立しました。いずれも反難民政策を選挙戦で大きく掲げて飛躍しました。

2015 年、100 万人を超える難民・移民が中東諸国から大量流入したことは、欧州の国民に一種のトラウマとなっています。オルバン首相のみならず EU 各国において欧州国民が感じている不安を巧みに煽って、選挙では有権者の支持を得てきています。

ドイツのアンゲラ・メルケル首相はオルバン首相の総選挙の勝利を複雑な思いで受け止めているようです。一方、CDU の姉妹政党、「キリスト教社会同盟」(CSU) のホルスト・ゼーホーファー内相はオルバン首相の勝利を大歓迎、「オルバン首相のハンガリーと関係強化を期待する」と祝電を送っているほどです。

またオーストリア与党国民党の党首セバスチャン・クルツ首相もオルバン首相に即祝電を送ったようです。

ちなみに、オルバン首相は反難民、反 EU 路線をとる一方、対外的にはロシアや中国に傾いてきています。ハンガリーは中国の習近平国家主席が推進している「一帯一路」に加盟した最初の EU 国です。しかし、オルバン首相は経済的にメリットのある EU から離脱するつもりはないといいます。

ブリュッセルの EU 本部では「今後も、オルバン政権と付き合いがなければならぬのか」といった悲観的な声があるようです。EU はフィデス政権下の司法改革、メディア改革を「民主主義の危機」として批判、難民割り当てを拒否するオルバン政権に対しては不満を表明していました。

(BBC 2018/4/9、朝日新聞 2018/4/9、ロイター 2018/4/8 より)

参考資料：EU 加盟国の人口分布と各国でのポピュリズム政党への支持率 (出所：Poll of Polls)

青系の北側諸国

政権自体は親 EU の中道保守・中道左翼系 (社会民主党) が政権を運営していますが、一定の割合で反 EU の政党への支持があります。(例；ドイツ：ドイツの選択「AfD」13%、フランス：国民連合「RN」21%、オランダ「FVD」27%「PVV」10%、オーストリア「FPÖ」32%)

緑系は、南欧・周縁諸国でも親 EU の政権が運営している諸国

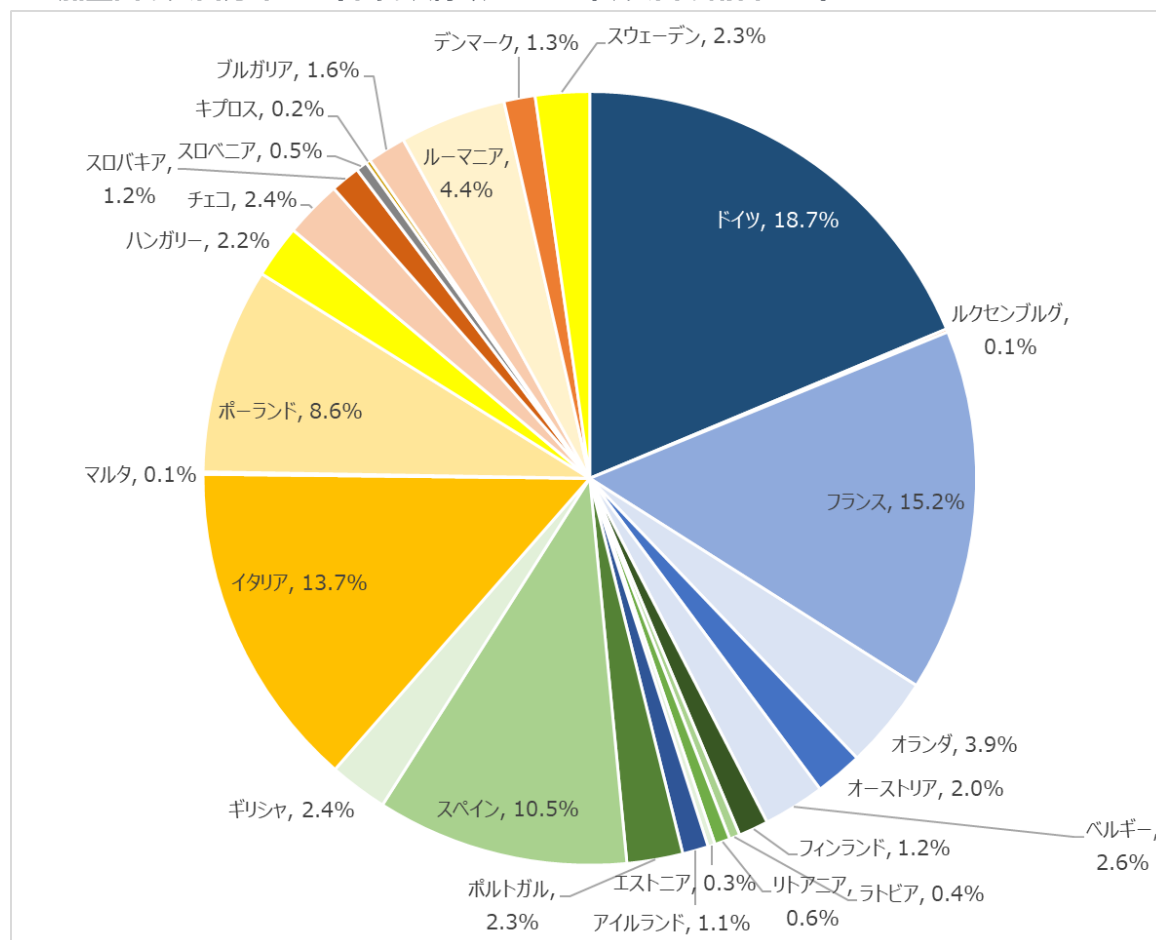
ただし、これらの国でも反 EU の政党は一定の支持率を集めています。(例；スペイン「VOX」10%、フィンランド「Fins」18%、ギリシャ「Syriza」26%「GD」8%)

橙・黄色系は、南欧および東欧諸国で、反 EU の政党が政権を有している諸国

イタリア「同盟」31%「五つ星」22%、ポーランド「PiS」40%、ハンガリー「フィデス」55%、チェコ「ANO」30%「ODS」15%「SPD」8%、スロバキア「SaS」13%「SNS」8%「SR」10%。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的としてブライト・アセット株式会社が作成した資料です。投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示された意見などは、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更されることがあります。投資に関する決定は、お客様ご自身で判断なさるようお願いいたします。

EU加盟国の人口分布（イギリスを除く、2017年、人口の割合：％）



出所：Eurostat

ポピュリズム政党への国別支持率（全ポピュリズム政党対象：2018年）

ハンガリー	65.1%	ドイツ	22.0%
ギリシャ	54.6%	スペイン	21.2%
ポーランド	51.2%	デンマーク	21.1%
イタリア	50.0%	スウェーデン	18.6%
チェコ	49.6%	アイルランド	17.7%
キプロス	35.4%	ルーマニア	10.0%
スロバキア	34.3%	ポルトガル	9.4%
エストニア	32.9%	スロベニア	8.2%
リトアニア	32.8%	ラトビア	6.9%
ブルガリア	32.7%	クロアチア	6.5%
フランス	27.1%	ルクセンブルグ	4.9%
オーストリア	26.0%	ベルギー	4.1%
フィンランド	24.8%	イギリス	1.8%
オランダ	22.2%		

出所：Euronews 2018/3/15より

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的としてブライト・アセット株式会社が作成した資料です。投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示された意見などは、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更されることがあります。投資に関する決定は、お客様ご自身で判断なさるようお願いいたします。

コラム：ポーランドのカチンスキ

ポーランドの政治家でカチンスキ氏は二人います。二人は一卵性双生児です。

ヤロスワフ・カチンスキ（兄）

「連帯」で政治活動を開始。2001年に弟のレフとともに「法と正義」（PiS）を創設しました。2006年7月～2007年11月首相。2007年の総選挙で、トウスク率いる「市民プラットフォーム」に敗れる。2010年6月大統領選挙に出馬するも、敗退。2013年8月、党大会でPiS党首に再選。現トウスクEU大統領は長年の政敵。

レフ・カチンスキ（弟）

「連帯」で政治活動を開始。2001年に兄のヤロスワフとともに「法と正義」（PiS）を創設しました。2000年から法務大臣、2002年～2005年にはワルシャワ市長、2005年12月23日～2010年4月10日にはポーランド大統領でした。2010年4月、カティンの森事件追悼70周年記念式典に出席するため搭乗していた大統領専用機の墜落事故により、同行していた妻のマリアおよび多数の有力政府高官と共に死亡しました。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的としてブライト・アセット株式会社が作成した資料です。投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示された意見などは、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更されることがあります。投資に関する決定は、お客様ご自身で判断なさるようお願いいたします。